

平成24年度京都市伝統産業活性化推進審議会

日時：平成24年6月29日（金） 14：00～16：00

場所：京都ロイヤルホテル&スパ 2階 翠峰の間

出席者：13名（五十音順，敬称略）

大谷 貴美子	京都府立大学生命環境科学研究科教授
柿野 欽吾	学校法人京都産業大学理事長，京都産業大学経済学部教授
河村 和子	京の伝統産業春秋会監事
島田 昭彦	株式会社クリップ代表取締役社長
白須 正	京都市産業観光局長
高木 壽一	元京都市副市長
滝口 洋子	京都市立芸術大学美術学部教授
塚本 稔	京都市副市長
日野 明子	スタジオ木瓜代表
船戸 潤子	市民委員
三木 清	京都伝統工芸協議会会長
森本 知佳	市民委員
渡邊 隆夫	西陣織工業組合理事長，京都商工会議所副会頭

欠席者：5名（五十音順，敬称略）

佐治 壽一	京の伝統産業春秋会会長
林 早苗	京都市小学校長会副会長，京都市立仁和小学校校長
山舗 恵子	株式会社京都リビング新聞社編集部編集長
山本 建太郎	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
若林 靖永	京都大学大学院経営管理研究部教授

1 開会

2 塚本副市長挨拶

3 議事

議 案1 審議会会長の選出及び副会長の指名について
会長に柿野委員を選出。副会長に高木委員及び若林委員を指名

議 案2 部会の設置及び部会委員の指名について
計画推進部会，審査選考部会を設置。各部会の委員を指名

報告事項 第2期京都市伝統産業活性化推進計画に係る平成24年度新規事業等について

<委員>

- ・ 資料の出荷額、従事者数の推移は、工業統計調査から従事者数4人以上の事業所を対象にした数字を引用されていると思うが、3年から4年に1回程度、全事業所を対象に全数調査をやっていると認識している。その数字と比較したいが把握されているか。

<事務局>

- ・ 現在、その数字は持ち合わせていないが、情報を入手してご報告をさせていただく。

<委員>

- ・ 資料では、伝統産業の日及び伝統産業ふれあい館の来場者数や満足度などの前向きな数値は把握できるが、例えば、検証するという意味では、どの辺りに問題点があるのかなどの声も必要だと思うが、その辺りは把握されているのか。

<事務局>

- ・ アンケートの集約は行っており、満足していただけなかった方などの声も、今後の事業展開に活かしていく必要があることから、自由記載欄等で出来る限り把握するように努めている。後日、その結果はご報告させていただく。

4 意見交換

<委員>

- ・ 先日、商工会議所で友人の公演があり、高台寺の修復に伝統産業の技術が使われているという話が出ていた。その中で海外の絵画を蒔絵の技術で修復できないかなどのお話もあり、日本国内だけでなく、海外のものを日本の匠の技でアレンジするという発想がおもしろいと感じた。
- ・ 国内での発展も大事だが、需要が縮小している中でこれからは海外にも目を向けて行動していかないと大きなマーケットを逃すことになる。

<委員>

- ・ 公共投資という概念があるが、その概念の中うまく伝統産業を組み込むことができないかという中で、四条通りの地下通路は人が往来するだけで非常に寂しい感じがする。あそこに京都らしい賑わいをもたせるために、伝統産業製品を活用すればおもしろいと思う。
- ・ 公共投資はセメントや鉄だけでなく、西陣織や京友禅、陶磁器も使い方や見せ方を工夫すれば使えるという斬新なアイデア、発想の転換がほしい。
- ・ そういう部分にもっとお金を費やせば、雇用の面も含めて業界は元気になるし、国内あるいは海外の観光客にも喜んでいただける京都になるのではないかな。

<委員>

- ・ 資料にも今年度から始める新規事業として、「隗より始めるプロジェクト」事業を紹介しているが、例えば、地産地消などの観点からも、京都産品の使用や、事業への活用などを広く企業や大学に働きかけていくことが大事である。

<委員>

- ・ ここ数年、仕事の関係で伝統産業に携わっているが、コラボレーションという概念が非常に大切だと感じており、単純に我々の伝統産業だけではダメだと痛感している。
- ・ 例えば、外国人のデザイナーと仕事をしていると、京都はいいモノをたくさん持っているが、発信力が弱い、うまく伝えきれていないと指摘されている。

- ・ コペンハーゲン出身のデザイナーに聴くと、よく「外で稼いでこい」と言われるそうだ。北欧のデザインを、例えば日本、中国などとコラボレーションして自分たちの国を豊かにするという発想が根底にはある。
- ・ 常に外にアンテナをはり、自分たちの国が外からどのように見られているのかを意識して仕事をするのが大切であり、今はインターネットなどを通じてあらゆるものを情報収集、情報発信できる時代だからこそ、うまく利用する必要がある。

<委員>

- ・ 情報発信の手法が多様になってきており、その重要性を鑑みると、効果的な情報発信について、例えば専門の部署を設置するなど、真剣に考える必要がある。

<委員>

- ・ 仕事をしていると、売ることの難しさ、さらに言えば売り続けることの難しさを日々実感している。例えば、事業の海外展開などの際に華々しく発表はするけれども、流通などの問題があり、継続して事業が続かないという話しをよく耳にする。
- ・ そういう意味では、行政がどこまでタッチできるか難しい所はあると思うが、特にアフターフォローなどの面で京もの海外市場開拓事業には期待している。

<委員>

- ・ 先ほどからコラボレーションというお話が出ているが、今年は京都市からお話をいただいて春秋会とわかば会が新商品開発のために交流する機会をいただいた。専門のコーディネーターの方にも入っていただけるとのことで、非常に期待している。
- ・ 以前から若い方には積極的に工房に足を運んでいただき、技術功労者の技を学んでほしいと思っていたが、なかなか難しい所もあると思う。
- ・ この機会を契機に、垣根が少しでも低くなることを望んでいる。

<委員>

- ・ 伝統産業の魅力は、職人の方の手づくりにある。そのために一度に大量の商品は製作できず、また、品質を保持するという意味でも売れすぎるのは困るという声もよく耳にする。
- ・ しかし、売れるための商品づくりが活性化のためには必要であり、難しい世界だと感じる。

<委員>

- ・ いろいろな伝統産業の業種とその他の産業の関係で言えば、例えば、伝統産業のある業種は1軒か2軒でやっておられる、あるいは、一部の工程作業はその方しかできないなど特殊な側面があり、それをひとくくりに産業振興とするのは何かそぐわない感じがする。
- ・ 実際に文化的価値というものを考えた時に、後継者問題も含めて、決して儲けにつながるものではないという概念で、予算なども工夫できるような仕組みにしていくことが大切である。
- ・ 産業振興という側面だけで捉えれば、どうしてもその効果を検証する必要が出てくるが、特に伝統産業の多くの業種は文化的側面で大きく物事を見て、保護していく、また、途絶えさせないという考えがふさわしいのではないか。

<委員>

- ・ 後継者という観点で言えば、これからは女性の時代である。例えば女性の方が結婚されて、時間を有効的に使いたいと思われたときに、空いた時間を利用して伝統産業の仕事をしていただけるような環境づくりがなされれば、技術の後継者となっていだける。

- ・ また、最近は特に刺繍などが代表例であるが、女性の方を対象に刺繍教室を開かれたり、直接、消費者と結びついてがんばっておられる元気な業種もある。
- ・ 伝統産業をいかに日常生活あるいは様々な趣味の世界と結び付けて興味をもってもらい、将来的にはその分野の担い手となっていただくかという観点も重要である。

<委員>

- ・ 市内の大学ではあるが、意外に京都市出身者が少ない。ほとんどが近畿圏の学生ではあるが、やはり京都に強い憧れをもっている。
- ・ しかし実際にもものづくりの現場を見たことがない、また訪れる機会もないことから、伝統産業を魅力的に感じていないのが非常に残念である。
- ・ 先ほどからコラボレーションという話が出ているが、大学同士の連携は基より、積極的に職人の方との交流を図り、学生自身が感性を磨いてもらいたい。その中で少しでも伝統産業の世界に魅力を感じて足を踏み入れる学生が増えるよう私も努力していく。

5 閉会